

公社造林第10次5カ年計画書

平成30年4月

公益社団法人 新潟県農林公社

目 次

	ページ
はじめに	1
I 現状と課題	2
II 基本目標と基本方針	7
III 具体的な取組	9
1 現地調査による現状の把握	9
2 効率的・効果的な森林整備の実施	9
3 収益の確保	10
4 今後の管理に向けた取組	11
5 5ヵ年計画	13

● はじめに

戦後復興による国内の森林伐採により木材資源の枯渇が叫ばれる中、経済成長に伴う木材需要が益々増加していったことから、木材資源の確保とともに水力発電や農工業用の水源確保、林地災害の未然防止といった観点から、昭和 33 年分収林特別措置法の施行により、全国各地で林業公社が設立され土地所有者個人では植栽が困難な奥地等での植栽が進められた。

本県では、昭和 47 年の第 23 回全国植樹祭の開催を契機に農林公社の前身である林業公社が設立、これまで約 1 万 h a の森林を造成してきている。

この間、森林造成を通じて水資源の涵養や、土砂流出防止など森林の公益的機能の発揮とともに、山村社会の維持発展に大きく貢献してきたが、木材価格は昭和 55 年をピークに下落の一途をたどり、現在、木材価格は 1 / 3 以下、人件費は 4 倍へ上昇する等、林業の経営環境は厳しい状況が続いている。

このため県では、公社分収林のあり方について平成 15 年度と 20 年度において、第三者による検討会を設置し各種の提言を受けた。当公社ではこの提言を基に経営改善のため駐在の廃止や新規植栽の休止等とともに長伐期施業への方針転換を図る等様々な取組みを進めているところである。

一方、公社分収林は最初の植栽から 40 年を経過し、建築用材として木材利用が可能となりつつある他、近年では県内合板メーカーによる県産材の積極的な活用や再生可能エネルギー固定価格買取制度による木質バイオマス発電の県内設置等により、これまで利用が難しかった間伐材（林地残材）で収益が確保できるようになってきている。

このような情勢変化を踏まえ、県及び公社では経営改善の観点から、さらなる改善に向けた対策の方向について検討するため、林業関係者からなる農林公社分収林事業経営改善検討ワーキングを開催した。この検討結果を踏まえ、第 10 次 5 年計画については、中間収入の確保により債務増加を抑制し、分収林経営の安定化を図るための行動計画として策定した。

I 現状と課題

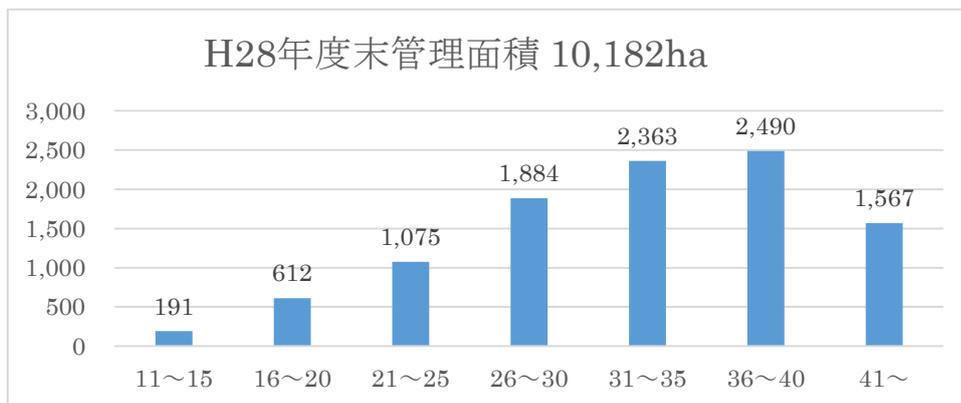
1 分収林経営の現状

(1) 分収林の状況

公社分収林は個人の森林所有者では整備が進みにくい里山奥地等の条件不利地を中心とした人工林整備を行い、県内人工林の7%を占める面積の整備を行ってきた。これらの資源は、水資源の涵養を始めとした森林が持つ公益的機能の発現や木材生産基地としての重要な役割を担ってきている。

平成28年度末現在の公社分収林の管理面積は10,182haで、平均林齢は32年生とまだ生育途中ではあるが、第10次5カ年計画期間からスギの標準伐期(45年生)を超えるものが徐々に増加する構成となっている。

このような資源構成から森林施業においては、これまで主体となっていた保育型の森林施業から、収穫型の森林施業(利用間伐)へ転換することが必要となってきた。



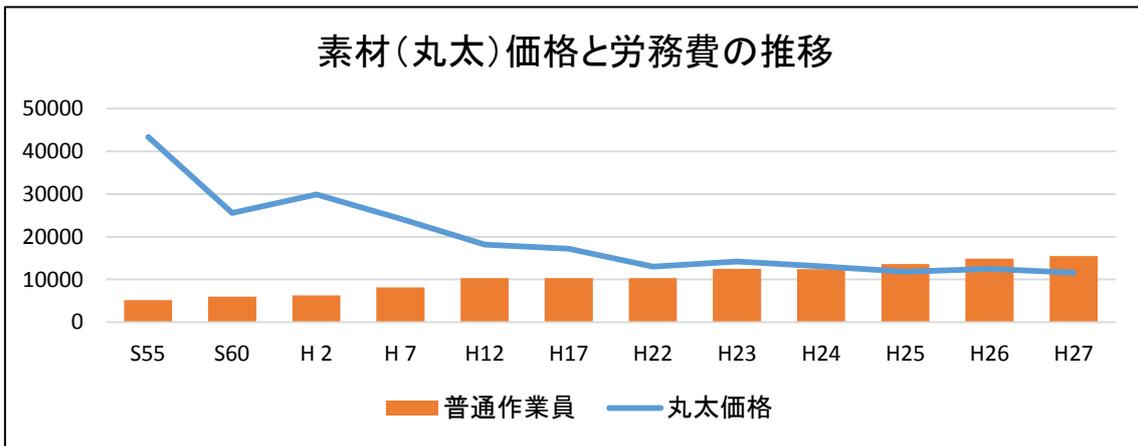
(2) 経営環境

資源環境が整備されていく中、木材価格は昭和55年をピークに大幅に下落するとともに労務単価が上昇するなど、当初想定していた長期的採算性の確保が困難な情勢となり、将来の収入についてはなお不透明な状況にある。

[スギ丸太価格] (S55) 43,400 円/m³ (ピーク) → (H28) 11,600 円/m³

[労務単価] (S55) 5,200 円/日 → (H28) 16,800 円/日

こうした問題が全国的に顕在化する中で、国は平成13年に政策を転換し、森林資源の役割を木材生産中心の方向から多面的機能の持続的発揮へと舵を切り、長伐期化へ誘導する施策を積極的に講じており、当公社においても第8次5カ年計画から、契約期間の延長や施業基準の見直し等の長伐期施業に向けた取組みを行っているところである。

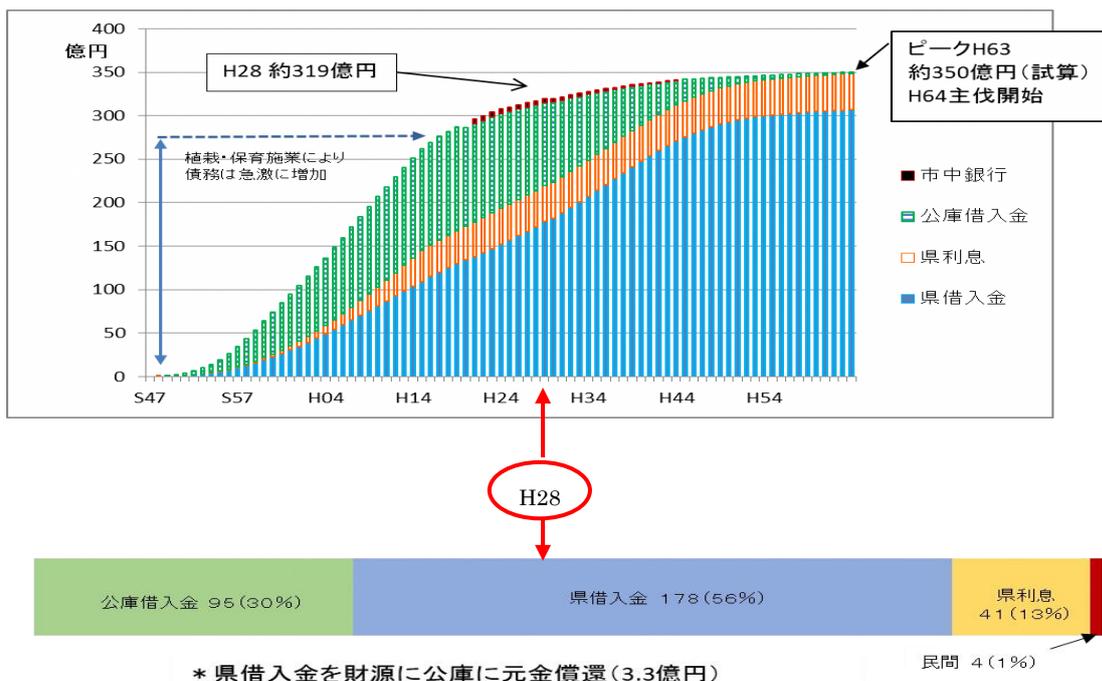


(3) 債務残高の状況

公社分収林は、土地所有者との契約に基づき地上権を設定し、土地所有者の負担なしで植栽・保育を行い、伐採時の収益を所有者と一定の割合で分収するもので、事業等に係る経費は造林補助金の他日本政策金融公庫及び県からの借入金によって賄っている。

このため、伐採収入があるまでは債務が累積する構造となっており、植栽や保育施業により、平成10年代まで急増し続けた債務残高は、新規植栽の休止(H17)や林木の成長に伴う保育施業の減少、経営改善に向けた様々な対策の実施により、増加の度合いは鈍化しているものの、なお累増している。

林齢80年で主伐する場合、平成64年に伐採を開始した場合の粗試算では、債務残高のピークは前年の平成63年に約350億円と、平成28年度からさらに31億円増加すると見込まれる。



- 平成 28 年度の債務残高は約 319 億円で、前年度比+2.3 億円増
 (内訳)
 - 公庫借入金等の利息 +156,936 千円 (財源：県借入金)
 - 人件費等管理費 +57,863 千円 (// //)
 - 森林整備における借入 +15,650 千円 (// : 公庫借入金)
- ※ 国・県補助金を活用の上、自己負担分に利用間伐及びカーボンオフセットの収益充当後、なお不足する財源を公庫借入金で調達
- 上記のほか、県借入金を財源として公庫へ元金償還 (321,131 千円)
 (既債務残高の内訳が公庫借入金から県借入金に同額シフト)

2 9 次計画の実績と課題

(1) 保育施業

- 公社分収林施業基準 (施業の実施林齢を規定) に基づき、計画した。
- 基準の林齢に達していても林木の本数や生育状況によって実施の適否を見極め施業を実施した。

○保育事業の実施状況

区分		H25	H26	H27	H28	H29	合計	実施率
除・間伐 (ha)	計画	405	507	551	416	386	2,265	50%
	実施見込	276	232	248	168	200	1,124	
枝打ち (ha)	計画	390	258	212	173	123	1,156	62%
	実施見込	298	149	88	99	87	721	
ha当たりの事業費(千円)		230	252	274	290	278	265	(5ヵ年平均)

*平成 29 年度は平成 30 年 1 月末現在の数値。

- 今後も現場状況を的確に判断し、効果的・効率的な保育施業を実施する必要がある。

(2) 路網整備

- 搬出条件の悪い団地 (地利 C) の改善のため、到達道 (林業専用道) と森林作業道の開設を計画した。
- 公社による開設を計画した路線は、森林所有者の同意取得が難航したことなどにより達成率は低位にとどまった。
- 森林作業道については、地利 C での利用間伐の実施が少なく結果として開設は少なくなった。

○地利Cにおける路網整備の実施状況

(単位：m、ha)

実施主体			団地数		延長			効果面積		
			計画	実績	計画	実績	実施率	計画	実績	実施率
到達道	林業専用道	公社	7	2	4,980	2,500	50%	58	32	55%
	林道	県・市町村	11	9	11,047	6,940	63%	110	93	85%
森林作業道		公社	38	7	19,925	8,846	44%	171	32	19%
合計			56	18	35,952	18,286	51%	339	157	46%

- ・ 引き続き地利級Cの団地において到達道を開設する必要があるが、開設に当たっては森林所有者の同意取得などの面から県、市町村と十分連携する必要がある。
- ・ 生産性の向上や経費削減を図るため地形条件や作業システムに応じて、適切な路網配置となるよう計画する必要がある。

(3) 利用間伐

- ・ 現場状況の把握が不十分で収支判断の精度が低いまま対象団地を選定したことなどから、6割程度の実施にとどまった。
- ・ 一方、民間事業者の参入により、計画面積にはとどかなかったもののH28年度以降実績は大幅に伸びた。

○利用間伐の実施状況

区分		H25	H26	H27	H28	H29	合計	達成率
面積(ha)	計画	111	117	126	138	145	637	60%
	実績	36	65	62	109	112	384	
利用材積(m ³)	計画	6,217	6,393	6,688	7,417	7,618	34,333	64%
	実績	1,688	3,467	3,781	6,652	6,400	21,988	
販売額(千円)	計画	33,771	36,223	39,671	43,781	46,524	199,970	68%
	実績	8,394	23,470	23,043	37,980	43,950	136,837	
収益		447	7,831	5,831	7,390	13,840	35,339	
参加事業者数		7	13	12	17	15	64	

*平成29年度は、平成30年1月末現在の数値

- ・ 利用間伐を効率的・効果的に実施するため、対象地の選定をしっかりと行う必要がある。
- ・ 収益力(1ha当たりの収益額)を高め、収益総額を増加させる必要がある。
- ・ 企画提案の募集にあたっては、参加事業者を増加させ、競争性を高める必要がある。

(4) カーボンオフセット

- ・ 大口購入企業への営業活動を着実に実施した結果、販売目標をほぼ達成した。
- ・ 収入は啓発経費の他、森林整備や路網の補修、森林調査経費として活用している。

○カーボンオフセットクレジットの販売状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	合計
販売目標(t)	350	350	350	400	400	1,850
実績(t)	325	343	366	430	372	1,836

*平成 28 年度 430 トンのうち、50 トンは G7 伊勢志摩サミットに寄贈

*平成 29 年度実績は見込量

- ・ 同一企業からの継続購入が年々困難になっていることから、県(環境企画課)とも連携しながら新たな購入者の開拓を進める必要がある。

Ⅱ 基本目標と基本方針

公社では、これまでに第三者からなる検討委員会の提言等を踏まえ、低利資金への借換えや新規植栽の休止、管理費の節減、県では貸付金の無利子化等、様々な対策を講じてきた。

しかしながら、債務増加の抑制が経営上の最大の課題である中、経営改善策の実施等により、増加スピードは抑制されてはいるものの、債務残高は今なお累増している。

こうした状況下において明確かつ具体的な目標・方針を定め、それらを実現・達成するための具体策を設定し、計画的かつ着実に実施することが必要である。

1 基本目標（基本的な考え方）

経済情勢の変化等により木材価格が大幅に上昇しない限り、公社による自立的な収支不足の解消は困難である。一方、経営改善の観点から、公社として実施できる対策としては、債務残高の累増を早期に止め、借入金に頼らない経営構造とすることで最終的な収支不足額を圧縮することである。

こうした考え方から、基本目標を以下のとおりとする。

[基本目標] 債務の増大を早期に止め、最終的な収支不足額を圧縮する。

2 基本方針と対応方向

基本目標の実現のため、木材販売等による収入の増加とともに、事業や管理に係る支出を抑制する必要がある。

主伐期を迎えるまでの間は、収益を生み出す事業は利用間伐及びカーボンオフセット事業に限られることから、基本方針と対応方向は以下のとおりとする。

[基本方針] 公庫の新規借入を縮小し、計画期間内に廃止する

[対応方向] 現場把握を的確に行い、利用間伐等の収益を増大させるとともに、効率的・効果的な森林整備を実施する。

○ 森林の状況とその区分に応じた森林整備の考え方

- ・ 現地の状況に応じた効率的・効果的な利用間伐、森林整備の実施

	施業林				不成績林		総計
	地位Ⅰ	地位Ⅱ	地位Ⅲ	計	施業見合せ	生育困難地	
地利A	821.8	1,300.5	797.1	2,919.4	75.0	443.9	10,181.7
地利B	817.0	1,292.6	1,435.8	3,545.4	169.6		
地利C	732.2	1,374.5	856.7	2,963.4	65.0		
計	2,371.0	3,967.6	3,089.6	9,428.3	309.6	443.9	

(ha)

生育が良好で搬出可能なため
利用間伐を推進 (42%)

生育状況を確認し今後の
施業を検討 (22%)

生育良好ながら搬出路
がないため路網整備を
検討 (21%)

主伐まで必要最低限の保育施
業 (8%)

契約解除等の検討(4%)

今後の生育等現場状況の
見極めが必要(3%)

※ 地 位：林木の生育状況を樹高で区分

- ・ 林齢 40 年生での樹高で判定

I (優)：19.4m 以上 II (普)：15.6m 以上 III (劣)：11.9m 以上

地 利：搬出条件の容易さを区分

- ・ 作業道までの集材距離等で判定

A (容易)：100m 以下 B (普通)：300m 以下

C (困難)：作業道による木材の搬出は困難

不成績林：成立本数が標準の 6 割未満の林分

うち 4 割未満の林分を生育困難地

Ⅲ 具体的な取組

基本目標と基本方針を受けて、第10次5カ年計画では下記の取組を実施する。

取組内容

- 1 現地調査による現状の把握
- 2 効率的・効果的な森林整備の実施
- 3 収益の確保
 - 利用間伐による収益の増大
 - カーボンオフセットの取組
- 4 今後の管理に向けた取組
 - 生育不良地の管理方法の検討
 - 契約延長の取組

1 現地調査による現状の把握

- ・ 施業時の現地調査に加え、長期間調査が実施されていない団地において調査を実施するとともに、林業事業者からの情報収集を実施する。
- ・ 調査は計画的に行うとともに、インターネットの地図情報の活用などにより効率的に実施する。
- ・ 把握した情報は統一フォーマットに取りまとめて蓄積し、長期的な団地管理に役立てる。

2 効率的・効果的な森林整備の実施

- ・ 施業基準を現場状況に応じて柔軟に対応するよう見直し。
- ・ 成林に不可欠な若齢時の保育施業は的確に実施する。
- ・ 生育状況や成立本数、形質を見極め優先度をつけて実施する。
- ・ 地利級Cは路網の開設可能性を勘案し、施業を実施する。
- ・ 地利Ⅲは生育状況を確認し施業を実施する。

○保育事業計画

作業区分	H30	H31	H32	H33	H34	合計
枝打(ha)	95	79	71	53	28	326
除間伐(ha)	210	189	177	153	134	863
つる切り(ha)	28	26	25	28	23	130
計	333	294	273	234	185	1,319

3 収益の確保

(1) 利用間伐による収益の増大

① 面積の拡大

- ・ バイオマス発電等木材需要の動向を踏まえ、切捨て間伐から利用間伐にシフトする。
- ・ 林業事業体に対し、対象地の衛星写真や林分状況、路網状況等を予め提示し、利用間伐事業の企画提案をしやすい環境を作る。
- ・ 大規模所有者としてのメリットを最大限生かせる販売や運搬方法について検討実施し、収益性の向上を図る。

② 事業体の育成・労働力の確保

- ・ 利用間伐未実施事業体に対する参入の働きかけを実施する。
- ・ 事業体の技術的課題に応じた指導を労働力確保支援センターと連携して実施する。
- ・ 事業体が労務を確保しやすい春先（前年度に前倒し）発注を進める。（平成 30 年度の予算から実施）
- ・ 高性能林業機械の効率的な活用や搬出コストの縮減、技術者交流による技術力の向上等を図るため、複数の事業体（共同事業体）が共同して企画提案を行う。

○利用間伐の計画

区分	H30	H31	H32	H33	H34	合計
面積 (ha)	123	125	159	160	161	728
利用材積 (m ³)	6,273	6,375	8,109	8,160	8,211	37,128
販売額 (千円)	26,445	26,875	34,185	34,400	34,615	156,520

*地位級 I・II、地利級 A・B を基本に積上

*利用材積は過去の実績を平均し ha 当たりの目標出材積 51 m³として算出

*販売額は過去の実績を平均し ha 当たりの目標収入額を 215 千円として算出

③ 路網整備の推進

- ・ 延長や地形条件などにより、開設が容易で施工効果の高い箇所から林業専用道の整備を進める。
- ・ 林業専用道の開設を国・県・市町村等との連携を強化して実施。
- ・ 利用間伐の生産性向上のため森林作業道の開設を積極的に進める。
- ・ 線形の選定にあっては緩傾斜地や旧道（造林作業路）跡の利用等により土工量を抑制し、開設経費を縮減する。

○路網整備計画（H30～H34）

（単位：m、ha）

区分	団地数	実施主体	計画延長	効果面積
林業専用道	8	公社	6,120	83
林道	6	県・市町村	—	44
計	14			127
森林作業道	—	公社	77,270	—

* 林業専用道は、計画期間に 8 路線を計画。

* 森林作業道は、現場状況を踏まえ計画延長を積み上げ。

（２） カーボンオフセットの取組

- ・ 従来の営業活動に加え、県の新たな取組である地元銀行によるクレジット売買の仲介制度を活用し、販売を促進する。
- ・ 現在の新潟県 J-VER は温対法*による温室効果ガス排出量のオフセット対象とはなっていないため、今後、オフセットの対象となる J-クレジットを発生させ、温対法の適用を受ける排出事業者に対しクレジットの販売を促進する。

※温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律）

温室効果ガスを一定量以上排出する者に温室効果ガスの排出量の算定・国への報告を義務付け、国が報告されたデータを集計・公表。

販売計画

（単位：トン）

作業区分	H30	H31	H32	H33	H34	合計
J-VER J-クレジット	320	320	320	320	320	1,600

4 今後の管理に向けた取組

（１） 生育不良地の管理方法の検討

- ・ 形質や成立本数等の現場状況に応じ、利用間伐の繰り返しによる針広混交林化・広葉樹林化も含め管理方法を検討する。
- ・ 成立本数の極めて少ない不成績林は、契約解除等を含め取扱いを検討する。

○不成績林の状況（H28 年度末）

管理面積(ha)	施業見合(ha)	生育困難(ha)	合計(ha)	構成比(%)
10,182	310	444	754	7

(2) 契約延長の取組

- 契約延長は市町村や生産森林組合所有地での取組が進み、面積の約4割に当たる4千haで実施されているが、個人所有地については進んでいないため、契約件数では6%の313件に留まっている。今後、個人契約者を中心に、計画的に取組を実施する。

○契約延長の取組み計画

全体			延長済み			10次計画における契約延長		
面積(ha)	筆数	契約件数	面積(ha)	筆数	契約件数	面積(ha)	筆数	契約件数
10,182	14,332	5,304	4,086	1,389	313	2,400	5,900	2,500
-	-	-	40.1%	9.7%	5.9%	63.7%	50.9%	53.0%

*契約延長は今後10年間2期に渡り計画。10次計画期間では、契約件数の半分を目標とする。

5カ年計画（H30～H34）

1 事業計画

第9次5カ年計画における林況調査等から新たに見直した施業基準により、事業計画を作成した。今後林齢が上がることから保育施業面積は減少するが、利用間伐は増加していく。

第10次5カ年 事業計画

（単位：ha）

作業種	H30	H31	H32	H33	H34	計
利用間伐	123	125	159	160	161	728
除間伐	210	189	177	153	133	864
枝打ち	94	78	71	53	27	325
つる切り	28	25	25	25	25	130
面積合計	456	418	433	391	348	2,048

2 資金計画

保育施業面積の減少により補助金・公庫借入金が減少していくが、これまでの公庫借入金の償還金の増加がしばらく続く。ことから将来的な償還を考えると利用間伐を推進し、収入の確保により単年度の公庫借入金の圧縮を図っていく必要がある。

第10次5カ年 資金計画

（単位：百万円）

		H30	H31	H32	H33	H34	計
収入	造林補助金	195	185	199	194	194	967
	公庫借入金	10	4				14
	県借入金	589	628	640	688	685	3,230
	伐採収入	29	35	42	42	40	188
	助成金等	17	17	16	15	15	80
	収入計	840	869	897	939	934	4,479
支出	直接事業費	229	216	232	224	220	1,121
	一般管理費	58	54	51	51	51	265
	償還金	547	591	604	653	649	3,044
	交付金	6	8	10	9	10	43
	支出計	840	869	897	937	930	4,473

【参考】長期収支見込

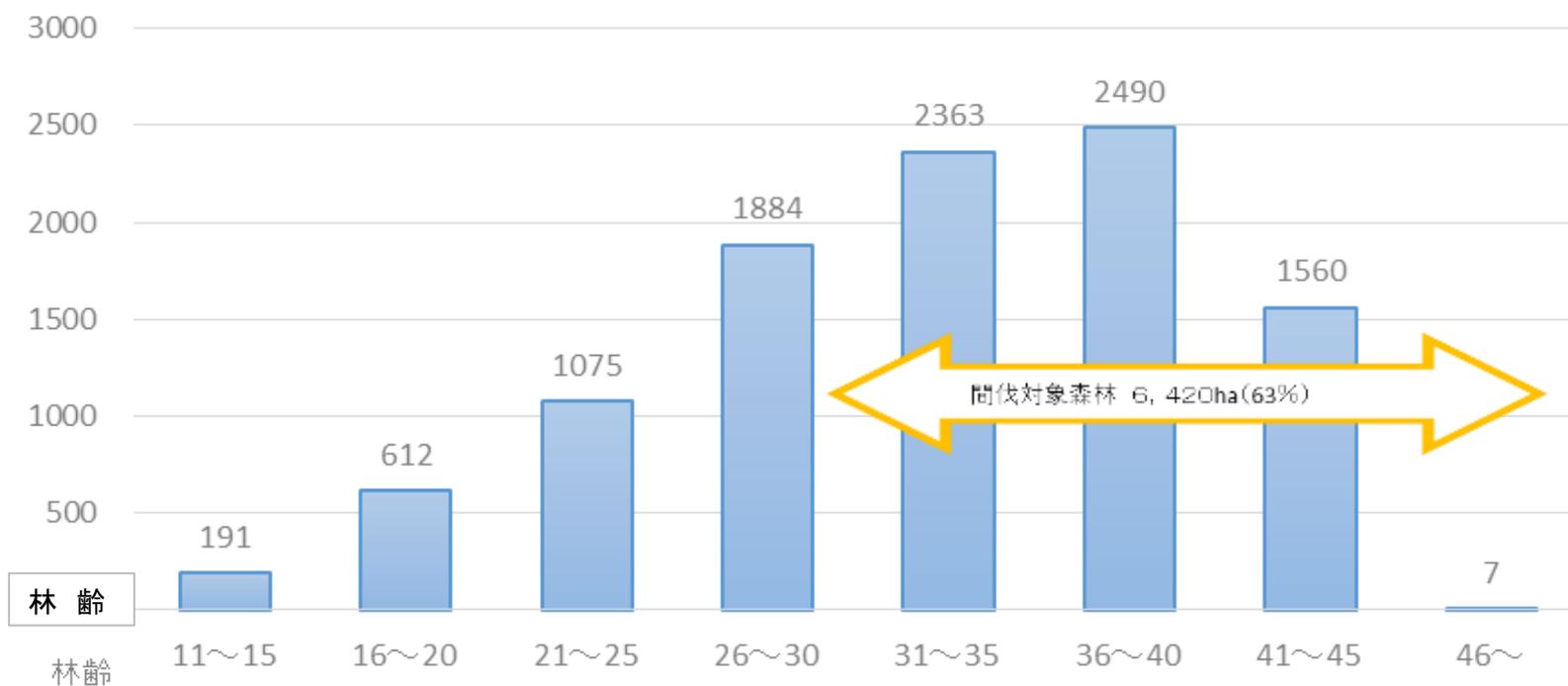
長期収支見込みについては、昭和 48 年度から平成 28 年度までの収支実績に、平成 29 年度から伐採が終了する平成 95 年度までの 67 年間の収支シミュレーションを合わせたものである。但し、このシミュレーションは平成 28 年度現在の賃金、資材単価、造林補助制度、金融制度を使用し試算したが、木材価格については、現段階で将来予測が極めて困難であるため、平成 28 年の新潟県木材価格の平均により試算した。

この結果、長期収支は△199 億円との試算結果となったが、今後の路網整備の推進や生産経費の低コスト化等を図り収入を増加させることで長期収支は△123 億円まで圧縮する。さらに木材価格が 16,600 円（収支均衡木材価格）まで回復すると 8 億円の収益が見込まれることから、条件によっては長期収支の試算が大きく変動する状況となっています。これに基づいた長期収支見込額を公表することは誤解や混乱を招く恐れがあるため、慎重な取り扱いとしているところですが、5 年ごとの計画の策定するなかでは、経営状況の指標の一つとして、また、経営改善策の効果額算定のための比較基準として必要なものと考えています。

区分	木材単価(円/m3)		収支見込 (単位:億円)	備考
A	H28年新潟県木材価格	11,600	△199	現状推移(現時点の生産性等で試算)
B	H28年新潟県木材価格	11,600	△123	路網整備の推移と主伐システムの低コスト化
C	H23年新潟県木材価格	13,900	△112	区分A現状推移(第9次計画収支△124)
D	H18年新潟県木材価格	15,600	△27	区分A現状推移(第8次計画収支△169)
収支均衡木材価格		16,600	8	区分A現状推移で収支均衡となる木材価格

分収林齡級別面積10,182ha (H28年度末現在)

(面積: ha)



団地別管理面積

地域	団地名	管理面積	地域	団地名	管理面積	地域	団地名	管理面積	地域	団地名	管理面積	地域	団地名	管理面積	地域	団地名	管理面積	地域	団地名	管理面積			
村上	コヤカ沢	16.00	津川	栄山	24.75	津川	安用	12.10	新潟	黒俣第3	12.00	長岡	細越	24.31	南魚沼	掛沢第4	5.50	上越	上牧	9.86	糸魚川	歌	17.61
村上	コヤカ沢第2	8.00	津川	栄山第2	18.10	津川	榎目	24.50	新潟	豊井	14.70	長岡	水上	47.00	南魚沼	船ヶ沢	9.00	上越	府殿	9.55	佐渡	赤木	16.00
村上	南大平	12.90	津川	田沢	12.00	津川	小山	10.87	新潟	豊井第2	26.29	長岡	水上第2	47.10	南魚沼	本屋敷第2	5.00	上越	府殿第2	13.50	佐渡	赤木	9.04
村上	木の子沢	15.00	津川	田沢第2	16.75	津川	大ツバ谷	27.30	新潟	下館	24.73	長岡	水上第3	20.80	南魚沼	勘平	9.86	上越	池沼	10.43	佐渡	赤木第2	8.88
村上	桃川	11.00	津川	島井	10.00	津川	三坂沢	4.35	新潟	小国谷	23.32	長岡	田屋	27.00	南魚沼	田野倉	9.29	上越	神谷	12.28	佐渡	赤木第3	10.00
村上	四郎右エ門	17.66	津川	福取	51.05	津川	堂平	4.90	新潟	小国谷第2	6.23	長岡	田屋第2	10.00	南魚沼	家野	12.89	上越	川原	11.70	上越	城山	13.00
村上	高根	100.00	津川	八ツ田	24.86	津川	細木	24.40	新潟	南小国谷	24.40	長岡	ニク又	10.00	南魚沼	大開	16.75	上越	稲子	8.06	佐渡	白瀬第2	20.80
村上	高根第2	44.70	津川	八ツ田第2	11.88	津川	細木第2	19.86	新潟	南小国谷第2	9.00	長岡	ニク又第2	10.00	南魚沼	東山	8.60	上越	竹鼻	7.32	佐渡	月布施	10.50
村上	元屋敷	32.00	津川	八ツ田第3	12.57	津川	細木第3	14.84	新潟	坂井	4.95	長岡	宮ノ窪	41.55	南魚沼	高畑	5.50	上越	切窪	21.70	佐渡	明吉	11.34
村上	元屋敷第2	9.40	津川	魚島	30.00	津川	五十沢	9.43	新潟	先崎沢	12.16	長岡	宮ノ窪第2	1.94	南魚沼	坪野	10.00	上越	赤沢	30.03	佐渡	北五十里	16.78
村上	元屋敷第3	8.82	津川	魚島第2	9.79	津川	五十沢第2	21.04	新潟	須巻	4.20	長岡	笹崎	8.10	南魚沼	水梨	16.10	上越	清生田第2	2.50	佐渡	城腰	17.25
村上	新四郎	26.10	津川	魚島第3	10.95	津川	内川	15.64	新潟	須巻第2	16.11	長岡	石曾塚	1.76	南魚沼	月池	15.40	上越	大橋沢	8.00	佐渡	北鶴島	6.00
村上	日倉	33.70	津川	魚島第4	14.64	津川	内川第2	19.44	新潟	能上	7.69	長岡	石曾塚第2	5.91	南魚沼	切畑	10.00	上越	吉井	23.00	佐渡	加茂歌代	14.90
村上	飯田沢	21.25	津川	京ノ瀬	10.00	津川	柳平	10.71	新潟	能上第2	2.96	長岡	戸口	3.31	南魚沼	切畑第2	35.50	上越	東田中	4.09	佐渡	水津	11.75
村上	高口	7.57	津川	平場	17.68	津川	金山	10.60	新潟	水穴	6.87	長岡	高尾	49.76	南魚沼	田戸	7.00	上越	景前田	9.51	佐渡	外羽黒	9.63
村上	関口	5.80	津川	平場第2	10.00	津川	金山第2	11.75	新潟	上郷出	9.90	長岡	石黒	18.00	南魚沼	魚野地	14.40	上越	景吉沢	13.35	佐渡	稚	2.72
村上	赤田	7.54	津川	倉ノ平	16.95	津川	金山第3	9.30	新潟	吾沢	10.36	長岡	寄合	18.02	南魚沼	中深見	13.00	上越	兼保	20.00	佐渡	下久知	4.00
村上	千歳	3.48	津川	軽井沢	28.23	津川	金山第4	83.96	新潟	中ノ谷	2.10	長岡	門出	9.99	南魚沼	千歳	43.76	南魚沼	鳥帽子	5.23	上越	兼保第2	14.50
村上	山藤田	10.97	津川	山藤田第2	9.81	津川	中ノ沢	14.68	新潟	輪原	5.55	長岡	門出	3.10	南魚沼	千歳第2	15.00	上越	形房	10.15	佐渡	大浦	17.00
村上	中津	2.30	津川	山藤田	20.16	津川	谷沢	14.38	新潟	山崎項	4.10	長岡	門出	3.15	南魚沼	西野谷	15.00	上越	西野谷	4.90	佐渡	下相川	10.40
村上	中津第2	11.57	津川	山藤田	8.20	津川	谷沢第2	9.56	新潟	坂中	6.96	長岡	後谷	3.62	南魚沼	西野谷	4.03	上越	西野谷第2	9.88	上越	東山寺	21.81
村上	中津第3	4.18	津川	袋沢	6.62	津川	谷沢第3	14.66	新潟	下郷	12.80	長岡	鎌田	10.00	南魚沼	大力	5.10	上越	西野谷第3	10.00	上越	東山寺第2	11.68
村上	小俣	20.37	津川	沼田	27.10	津川	谷沢第4	10.00	新潟	下郷第2	15.84	長岡	隠田	2.62	南魚沼	小平尾	30.44	上越	西野谷第4	15.00	上越	南中島	31.55
村上	小俣第2	43.30	津川	深戸	11.78	津川	谷沢第5	5.60	新潟	島田	2.92	長岡	荒谷	4.37	南魚沼	大松	12.00	上越	西野谷第5	9.80	上越	簡方	9.03
村上	大毎	14.35	津川	カントウ平	28.27	津川	吉津	11.33	新潟	雄谷	6.27	長岡	北ノ入	4.81	南魚沼	吉原	14.50	上越	西野谷第6	5.40	上越	簡方第2	14.46
村上	大毎第2	10.85	津川	カントウ平第2	21.35	津川	吉津第2	17.55	新潟	雄谷第2	15.18	長岡	岩沢	11.96	南魚沼	池平	10.00	上越	飯喰沢	13.05	佐渡	入川	10.33
村上	北赤谷	10.34	津川	高山	27.41	津川	川口	8.49	新潟	上郷	10.08	長岡	岩沢第2	23.98	南魚沼	米沢	45.17	上越	長沢第2	10.10	上越	長瀬山	7.30
村上	北中	20.00	津川	高山第2	11.40	津川	岩谷	12.33	新潟	上郷第2	4.99	長岡	岩沢第3	16.10	南魚沼	米沢第2	14.70	上越	米沢	9.10	上越	関	7.51
村上	大谷地	10.00	津川	ウダ滝	30.00	津川	五十島	10.00	新潟	小豊	0.53	長岡	岩沢	1.00	南魚沼	並畑	9.39	上越	矢沢	7.00	上越	山越	15.45
村上	泉沢	13.00	津川	ウダ滝第2	15.90	津川	五十島第2	10.00	新潟	小豊第2	7.45	長岡	真人	10.00	南魚沼	東畑	17.64	上越	猪野山	11.00	上越	東戸野	9.20
村上	芦谷	20.00	津川	徳瀬	20.97	津川	赤六	20.00	新潟	九川	5.13	長岡	真人第2	17.00	南魚沼	三ツ峯	12.60	上越	高柳	20.20	上越	石仏	25.46
村上	寒川	22.70	津川	徳瀬入沢	10.00	津川	新谷	14.00	新潟	九川第2	5.09	長岡	真人第3	8.70	南魚沼	権理堂	11.00	上越	赤池	6.53	上越	沢根第3	14.22
村上	寒川第2	20.40	津川	徳瀬沢入第2	12.00	津川	川入	25.30	新潟	鳥越	14.61	長岡	行塚	22.87	南魚沼	一ノ沢	42.91	上越	繁尻	4.07	上越	赤池第2	5.00
村上	寒川第3	6.00	津川	当麻	2.49	津川	川入第2	3.20	新潟	鳥越第2	7.13	長岡	北ノ沢	16.00	南魚沼	水無口	7.83	上越	馬屋	0.40	上越	馬屋	9.80
村上	寒川第4	5.00	津川	当麻第2	21.20	津川	京蔵	11.70	新潟	沢下奈	5.88	長岡	中山沢	18.03	南魚沼	来沢宮ノ窪	11.00	上越	三ツ俣	9.77	上越	踏倉	15.75
村上	ヒノ沢	17.60	津川	水沢	15.00	津川	金山沢	9.69	新潟	日影	6.07	長岡	峠	9.82	南魚沼	東中	3.80	上越	小池	9.69	上越	青柳	1.10
村上	ヌメ沢	35.30	津川	水沢第2	9.85	津川	大花地	15.90	新潟	津谷	6.11	長岡	池ヶ原	10.40	南魚沼	福山新田	22.14	上越	有開川	10.98	上越	大東	23.00
村上	ヌメ沢第2	14.36	津川	高瀬沢入	11.00	津川	小巻久保	50.44	新潟	山崎	17.33	長岡	池ヶ原第2	7.09	南魚沼	福山新田第2	12.48	上越	廣野	10.72	上越	水吉	9.70
村上	藍川	19.01	津川	高瀬沢入第2	19.01	津川	山崎	19.00	新潟	山崎	3.00	長岡	池ヶ原第3	16.36	南魚沼	福山新田第3	15.00	上越	長沢	13.74	上越	水吉第2	6.05
村上	藍川第2	13.50	津川	大野	10.00	津川	大野	23.45	新潟	山崎	12.00	長岡	主馬塚	3.24	南魚沼	赤土第2	10.00	上越	三ツ峯	10.00	上越	水吉第3	13.85
村上	藍川第3	18.60	津川	養生野	19.98	津川	入牧第2	7.28	新潟	相野原	11.80	長岡	主馬塚第2	14.83	南魚沼	赤土第3	10.30	上越	藤ヶ浦	10.50	上越	藤原	5.70
村上	下道沢	31.20	津川	大石平	9.37	津川	園沢	4.00	新潟	相野原第2	6.63	長岡	長谷	9.93	南魚沼	沢川	16.00	上越	藤ヶ浦第2	8.28	上越	藤原第2	13.00
村上	芦ノ平沢	30.60	津川	黒瀬	26.68	津川	黒瀬	10.60	新潟	黒瀬	10.60	長岡	長瀬	10.00	南魚沼	福山	19.00	上越	藤ヶ浦第3	4.54	上越	外ノ谷	16.00
村上	荒井沢	15.20	津川	葵湯	10.50	新潟	荒川	9.86	新潟	鏡橋第2	10.18	長岡	美沢	25.87	南魚沼	須川	19.74	上越	中ノ俣	9.77	上越	外ノ谷第2	14.90
村上	芋沢	9.10	津川	葵湯第2	27.10	新潟	横平	22.00	新潟	法坂	12.15	長岡	池ノ尻	12.15	南魚沼	須川第2	9.33	上越	中ノ俣第2	4.91	上越	不動	23.95
村上	大水上	8.00	津川	葵湯第3	8.50	新潟	起越	14.20	新潟	二本柳	15.47	長岡	上大谷	5.90	南魚沼	谷内	9.36	上越	牛池	12.00	上越	不動第2	33.25
村上	笹川	26.40	津川	土倉	10.40	新潟	向山	26.50	新潟	箕輪	15.54	長岡	古滝	1.18	南魚沼	谷内第2	11.70	上越	名立大町	6.28	上越	原黒住吉	21.40
村上	岩石	2.89	津川	土倉第2	12.00	新潟	大槻	11.00	新潟	森芳	14.39	長岡	黒水	3.45	南魚沼	谷内第3	6.00	上越	吉浦	12.20	糸魚川	砂場	10.95
村上	碓石	5.40	津川	土倉第3	4.80	新潟	中屋敷	9.70	新潟	七日町	9.10	長岡	黒水第2	2.99	南魚沼	松川	5.24	上越	丹原	13.12	糸魚川	砂場第2	10.50
村上	野沢	5.00	津川	日影山	8.80	新潟	中屋敷第2	10.75	新潟	千谷沢	17.50	長岡	西山	4.17	南魚沼	石高沢	26.12	上越	皆口	12.47	糸魚川	中宿	10.99
村上	アミダ山	19.40	津川	九島	9.94	新潟	山内	12.60	新潟	法末	6.32	長岡	津沢	7.54	南魚沼	須原	5.49	上越	横清水	3.52	糸魚川	頭山	21.58
村上	ソウザ山	10.38	津川	九島第2	9.85	新潟	米倉	9.00	新潟	橋沢	6.41	長岡	柳窪	15.84	南魚沼	須原第2	15.65	上越	下正善寺	5.52	糸魚川	御前山	23.17
村上	ウノウ	4.70	津川	高田	20.00	新潟	高田	6.94	新潟	和南津	9.95	長岡	明晶	6.23	南魚沼	倉	9.49	上越	下正善寺第2	9.49	糸魚川	御前山第2	19.92
村上	明神前	14.60	津川	軽沢	19.29	新潟	柳橋	23.30	新潟	和南津第2	4.99	長岡	杉沢	9.05	南魚沼	倉第2	4.50	上越	下綱子	9.30	糸魚川	関	44.20
村上	今川	5.46	津川	小杉	14.96	新潟	境	17.50	新潟	田妻山	10.35	長岡	石地	14.70	南魚沼	倉第3	5.80	上越	上船倉	19.39	糸魚川	アカハゲ	29.00
村上	今川第2	8.00	津川	高清水	22.10	新潟	下山田	6.49	新潟	田妻山第2	6.40	長岡	石地第2	0.56	南魚沼	二分	8.93	上越	朴の木	10.83	糸魚川	アカハゲ第2	19.36
村上	塔下	12.95	津川	立前	15.50	新潟	馬下	10.33	新潟	田妻山第3	23.10	長岡	浦地	4.66	南魚沼	田代沢	13.00	上越	朴の木第2	23.36	糸魚川	大谷内	16.06
村上	比沢	8.27	津川	磯取	19.99	新潟	大谷	19.00	新潟	田妻山第4	3.85	長岡	牛ノ塚	3.74	南魚沼	砂ノ山	17.00	上越	伏野	13.74	糸魚川	不動	9.67
村上	大蔵沢	5.68	津川	小瀬ヶ沢	20.00	新潟	風越	15.00	新潟	田妻山第5	15.00	長岡	二ノ沢	5.90	南魚沼	大白川	20.00	上越	柳野	8.34	糸魚川	香沢	33.43
村上	高崎平	5.57	津川	窪谷	45.00	新潟	小山田	11.00	新潟	田妻山第6	18.47	長岡	古滝谷	5.14	南魚沼	末沢	29.83	上越	行野第2	9.00	糸魚川	大野	10.00
村上	小出沢	3.27	津川	窪谷第2	15.00	新潟	小山田第2	3.67	新潟	島湯	11.47	長岡	大山	30.89									

第10次計画 地位・地利別施業基準

林齢	地位Ⅰ		地位Ⅱ		地位Ⅲ	
	地利A・B	地利C	地利A・B	地利C	地利A・B	地利C
2～7	下刈	下刈	下刈	下刈	下刈	下刈
11	除伐 枝打(2m)	除伐 枝打(2m)				
13			除伐 枝打(2m)	除伐 枝打(2m)		
18	除間伐 枝打(4m)	除間伐			除伐 枝打(2m)	除伐 枝打(2m)
23			除間伐 枝打(4m)	除間伐		
25						
30	<p>○地位(Ⅰ・Ⅱ)の地利(A、B)は、利用間伐を実施</p> <p>○地位(Ⅰ・Ⅱ)の地利(C)は、到達道の開設に努め、必要に応じて切捨間伐を実施</p> <p>○地位(Ⅲ)の地利(A、B)は、現場状況に応じて利用間伐を実施するとともに、 主伐方法を再検討</p>					
35						
40						
45						
46						
50						
60						
80	主伐	主伐	主伐	主伐	主伐	主伐

5カ年計画における施業団地一覧

地区名	利用間伐・森林作業道事施団地					保育事業団地						
村上 (33)	大沢 ソウラ山	土沢	元屋敷	八ツ口	高根第2	鮎谷 仮田沢 塔下 越沢第2	幾地 山熊田第2 ヒト沢 中走	下関 小俣第2 霜降平 トエタ沢	水頭沢 大毎第2 赤田 朴平	板越 ヌクミ沢第2 千縄 中浜	木の子沢 明神前 雷 府屋	桃川 今川第2 越沢
津川 (80)	角島第3 金山第2 福取 九島第2 土井 中之沢	角島第4 五十島 八ツ田 鍵取 牧野 谷沢	高瀬沢入 川入 角島 室谷 綱木第2 新谷	麦生野 栄山 ガンドウ平 室谷第2 綱木第3	高清水 田沢 徳瀬 七名 五十沢	田沢第2 高山 大石平 小杉 押手 金山 ウド滝第2 川入第2	八ツ田第2 ウド滝 黒崎 室谷第4 片田 金山第3 土倉第3 入牧第2	八ツ田第3 徳瀬沢入 菱潟 中山 棒目貫 吉津 室谷第5 西小出沢	角島第2 徳瀬沢入第2 菱潟第2 七名第4 綱木 京蔵 小山	平堀第2 水沢第2 土倉第2 豊川 内川 大曾久保 大ソバ谷	倉ノ平 豊実 九島 蟬 内川第2 沼田 三坂沢	古田 麦生野第2 軽辺 惣ノ又 栃平 高山第2 堂平
新潟 (31)	小山田第2	上戸倉	保田			起越 坪穴 先納沢 轟	中屋敷第2 坪穴第2 須巻 棚橋	山内 夏井 須巻第2 湯沢	米倉 夏井第2 杉川 阿弥陀瀬	田貝 下館 川内 笹目	出湯 小国谷 フリイ 横渡	下山田 南小国谷第2 岩割 にごり沢
長岡 (59)	水上第2 水上	宮ノ窪 田屋	逆谷 長谷	猿橋 相野原	法坂	水穴 楡原 曲谷 名下第2 池田 水上第3 飯田 主馬殿	石曾根第2 北荷頃 曲谷第3 小滝 敷又 戸口 飯田第2	長瀬 下塩第2 中浦第2 北潟 二本柳 葎谷第2 鳥越第2	上大谷 小貫第2 五所ノ入 鳥越 箕輪 九川 沢下条	黒水 北五百川 五所ノ入第2 日影 法末 九川第2 樽沢	黒水第2 江口 百地 大山 四ツ子 名下第3 北ノ入	上樫出 牛ヶ首 名下 田中 熊上第2 大日影 真田第2
南魚沼 (27)	千溝第2 坂戸	米沢 桐沢	長崎 坪野	山口 水梨	木ノメ沢	真田第3 ウラ山 米沢宮ノ澤	新座 向白板 東中	魚野地 笠の平 倉第3	千溝 川原 桐沢第4	大力 君沢	水無口 六箇峠	倉第2 浦佐ツナギ
上越 (40)	長沢第2 横清水 東戸野 儀明 石仏	有間川 北山 外ノ谷第2 上船倉 赤池	三京 府殿第2 西野谷 朴の木	中ノ俣 兼俣第2 長沢 長走	牛池 花房 小池 上牧	西野谷第6 東山寺 鍋ヶ浦第3	平丸 南中島 下綱子	大畑 沢田 泉吉沢	下正善寺 大東 赤池第2	朴の木第2 水吉	大島 外ノ谷	城山 三ツ俣
糸魚川 (15)	砂場 東谷内	頭山 田麦平	御前山 雨池	夏中	高倉	砂場第2	アカシ平	大谷内	西中	山之坊第3	雲池	船木
佐渡 (46)	羽田 真光寺 猿八	羽田第2 田野沢	沢根 大浦	沢根第2 沢根第3	山田 北方	椿 羽吉 下久知 ドヤギ 外岬	赤玉 北五十里 小川第2 新町 関	赤玉第2 城腰 ソデ平 新畑野 青木	赤玉第3 加茂歌代 大野 松尾平 宿根本第2	白瀬 水津 キセン城 下黒山 村川	白瀬第2 外羽黒 生椿 吉岡 木野浦	月布施 椎 吾潟 小比叡 大峯
計 (331)	(96)					(235)						